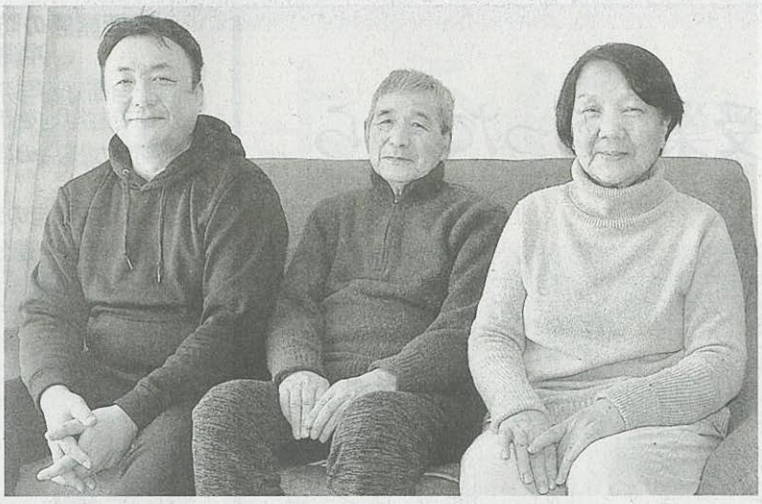
地元思うと戻りたいが…

元日に起きた能登半島地震で被災した人たちのうち、親族らを頼って県内に「自主避難」している人がいる。県が確認している数は14世帯25人（1月29日現在）。東近江市の長男宅に、着の身着のままで避難してきた70代の夫妻に話を聞いた。



七瀬武則さん（中央）、美和子さん（右）と長男の真奈夫さん＝東近江市

能登地震で東近江に避難した夫妻

石川県七尾市青葉台の農業七瀬武則さん(76)と、妻の美和子さん(73)。武則さんは地元の農協に勤めながら、約1㌶の田んぼで米を育ててきた。

1月1日夕方、2人は自宅でテレビを見ながら、くつろいでいた。少し強い地震があり、直後に大きな揺れが襲った。「本当にこわかった。立っていられないほどひどかった」と美和子さん。玄関先に出ると、自宅の屋根から瓦が落ちてきた。

自宅は危険だと思い、2人で近くの児童公園に身を寄せた。その時、東近江市に住む長男の真奈夫さん(50)から携帯電話に連絡があった。すぐに駆けつけようとした真奈夫さんに、「危ないから来るな」と止めたという。

地震で家財が散乱した七瀬武則さんの自宅＝石川県七尾市、七瀬真奈夫さん提供

自宅直し 今後も生活していけるか

2人はその後、体育館で1泊、小学校で1泊。3日に迎えにきた真奈夫さんの車に布団と着替えを積んで、約6時間かけて東近江市に到着した。

夫妻は、これまで能登を離れたことはなかった。親戚や知人も多い。断水が続く中、地元で避難している人のことを思うと申し訳ない気持ちになるという。

「一度、様子を見たい」。2月6日、真奈夫さんの車で自宅に戻った。夫妻は家財道具が散乱する自宅の中で、こたつで寝た。翌朝に再び地震が起きたこともあり、真奈夫さん宅に帰ってきた。

東近江市では「診療所や近所の人たちがやさしくしてくれる」と真奈夫さんは両親の状況を話す。美和子さんは地震で入れ歯がなくなり、硬いものが食べられない。歯科医師が「できるだけ早く入れ歯を作るから」と言ってくれたという。

戻りたい気持ちはある。武則さんは「動ける間は、七尾で畑をしながら暮らしたい」という。だが、自宅は瓦が落ちて一部損壊の状態だ。お金をかけて修理して、今後も2人で生活していけるのか。結論は出ていない。

（松浦和夫）